

大竹彩奈 作品集

ぬり絵付き



Ayana Otake
Art Works

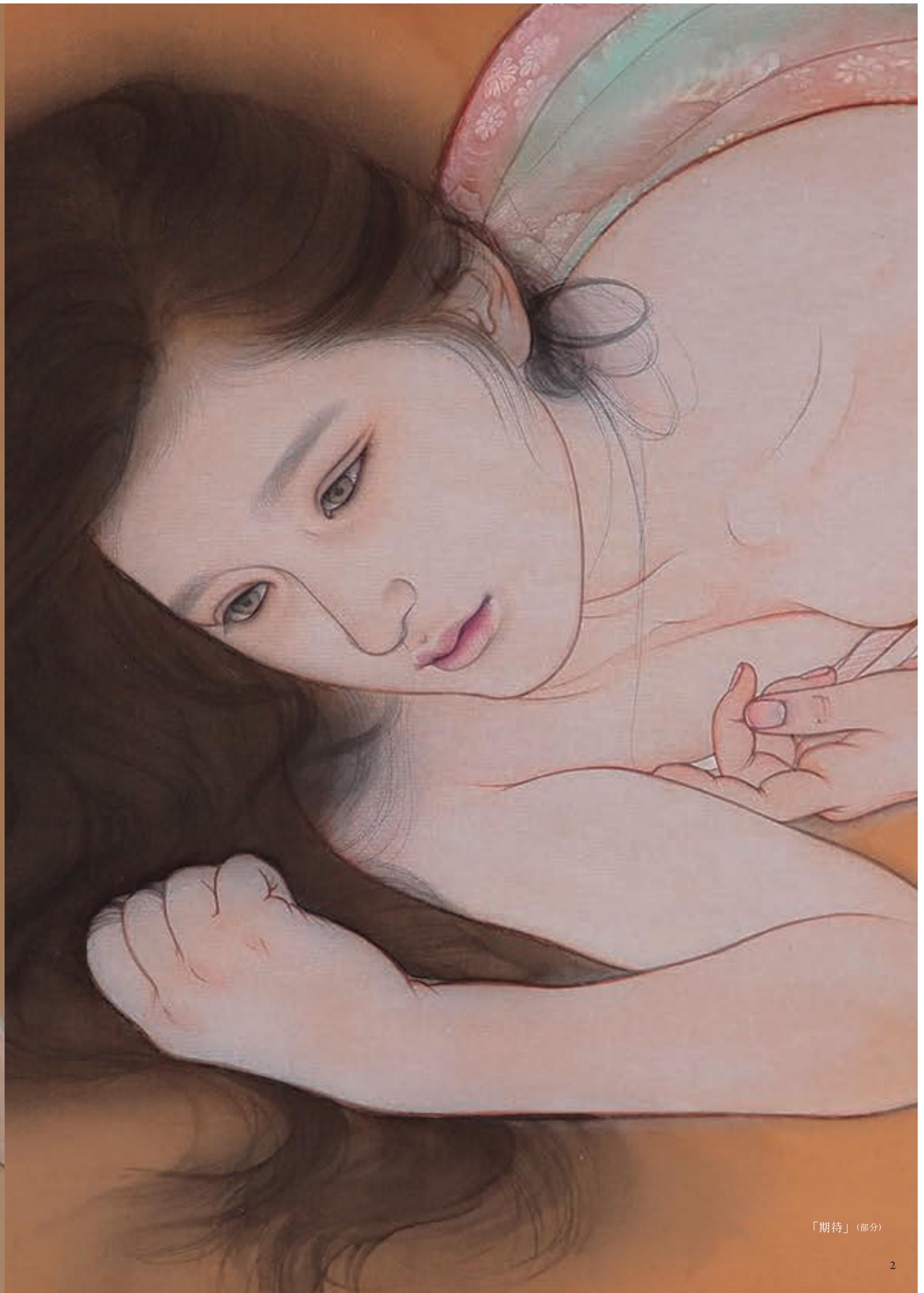
大竹彩奈 作品集

自分だけの美しい花。
誰にも知られる事のない、
永遠に甘い匂いを放ち続ける。
記憶に閉じ込めた花は、
匂いに気付かないよう一瞬で目を背ける。
花に気付かれないよう瞬で目を背ける。
香しい匂いを放つ花。
人知れず無防備にぱらりと咲き、
暗闇の中で、

大竹彩奈



「淡夢」(部分)







恍
Fascination
M20



微香
waft
絹本 Silk canvas P6



記憶
memory
P8



ねがい
wish
M10

恋に落ちた瞬間のよくな、 甘美なフィルターを通して 女性像が描きたい



Q1 大竹さんの描く女性の変遷について、以前は陰のある表情が多かったように思います。そこから陰の部分が減り、憂いはあるものの少し明るさを感じます。

そして今回描かれた女性達はとても色艶があります。

この変化は何かしら思うところがあつたのでしょうか？

大竹 以前は日本文化における「怖さ」や「毒々しさ」をテーマに描いていました。

最近になってようやく気付きましたが、その頃私が本当に描こうとしていたものは、実は日本文化や「怖さ」ではなく、「不幸な女」でした。その頃の私にとってのリアルが「不幸な女」だったということです。しかし学生の頃はテーマを打ち立てることが先行していて、描きたい核の部分に気付くことができませんでした。「不幸な女」が背負ういろいろな感情や、反面持ち合われる包容力などを表現したいと思っていました。また自分が女性であることから、負の感情を投影して描く事ができました。それで陰のある表情になっていたのだと思います。しかし、「怖い」絵を描くうちに、だんだん自分自身の感情を盛り込むことが先行していく、描きました。

足踏みしていた頃、ちょうど大学を離れ本当に日々1人で制作できるようになった時に、一度リセットしようと思いつきました。

最も描きたいのは何か。純粋に問い合わせた時に、恋に落ちた瞬間のよくな、甘美なフィルターを通して描かれた女性像が浮かび上がつてきました。

実際に描いてみると、やはり追求しがいのある方向だという手応えがありました。また気持ちの変化が訪れるまではしばらく今の表現を続けたいと思っています。

Q2 モデルはどのような基準で選んでいますか？拘りなどあれば教えてください。

大竹 外見的な括りでは、黒髪、バーマをかけていない、レイヤーの入っていない髪型、雰囲気のある人、目元が印象的、などが挙げられます。

一度描いてみないとわからないので、できるだけ「いいかも」と思った人は一度は描かせてもらうようになります。

Q3 着物を纏っている女性の作品が多いからか、描かれている際に大竹さんが想定されている時代背景が、現代ではない印象を受けます。時代的にはどのあたりが好きですか？

大竹 どちらかといえば女性を描く時に、どの時代の女性、という風に断定されたくないのですが、着物の襦袢を着せていました。絵と関係ないところでは最近は平安時代が好きです。

Q4 今後描いていきたいものについて教えてください。

大竹 今後は着物に関係なくいろいろなコスチュームの女性像を描いていきたいです。

Q5 どんな作家になりたいですか？

大竹 プロフェッショナルな仕事をする作家になりたいです。日本画は素材の扱いがとても難しいだけに、作品の魅力と技術が直結しているような部分があります。今は力も経験も不足しており、表現したいものを表現できないもどかしさが始終ついてまわっています。作品のクオリティを少しずつでも確実にあげて、力のある作家になりたいです。

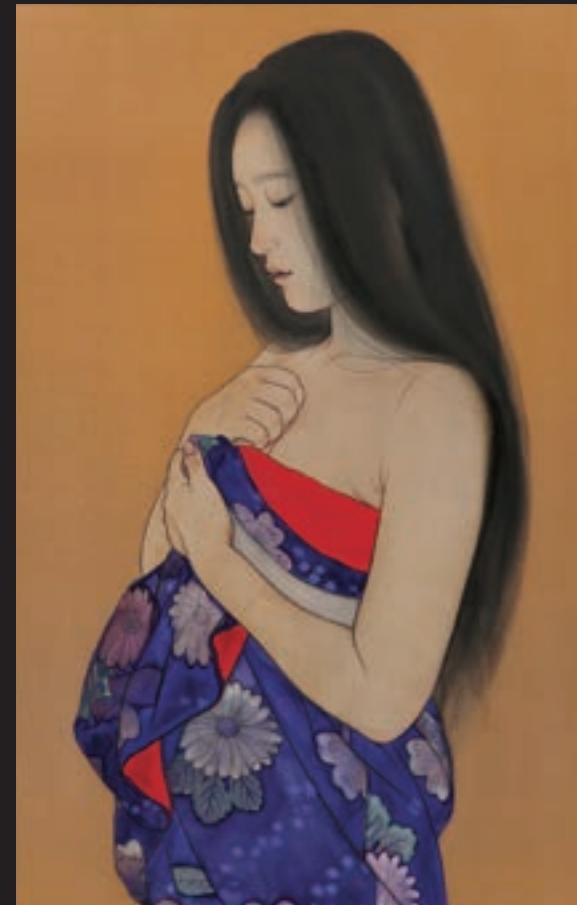




子守唄
lullaby
絹本 Silk canvas F6



いざない
temptation
絹本 Silk canvas F15



あけぼの
dawn
絹本 Silk canvas M10



潤み
moistened
F8



夜深し
late hours
P15



淡夢
faint dream
絹本 Silk canvas F10



期待
expectation
絹本 Silk canvas P8



葉月
August
P6



19



18



略歴

1981年 埼玉県に生まれる
2007年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
2009年 東京藝術大学大学院美術研究科(日本画)修士課程修了
2012年 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻 日本画研究領域修了(学位取得)
《個展》
2010年 「大竹彩奈展」ギャラリーショウアッド(青山)
2013年 「第46回レスボワール新人選抜展／大竹彩奈」銀座スルガ台画廊(銀座)
2014年 「大竹彩奈展」銀座ぎゃらりい朋(銀座)
2015年 「大竹彩奈展」銀座ぎゃらりい朋(銀座)
2016年 「大竹彩奈日本画展」伊勢丹新宿店(新宿)
《グループ展》
2007年 「素描展」東京藝術大学大学美術館 陳列館(上野)以後'08～'14
2009年 「紙本の絵画展」小津和紙博物館 小津ギャラリー(日本橋)以後'10、'13、'14
2010年 「流—日本画×韓国画、国境、文化、伝統を越えて—」柿傳ギャラリー(新宿)以後'13～'15
「3国G—I mage in dialog—」TEPCOギャラリー(ソウル)、韓国文化院(新宿)
2012年 「YOUNG ART TAIPEI 2012」晴山藝術中心画廊(台北)以後'15
「三越×東京芸術大学『夏の芸術祭2012-次代を担う若手作家作品展』」
日本橋三越本店(日本橋)以後'14
2013年 「永温三彩—女流作家三人展」そごう横浜店(横浜)
2014年 「僕倅の会—東京芸術大学日本画第二研究室出身者による研究発表展」
スルガ台画廊(銀座)以後'15
2015年 「第3回 桜花賞展」郷さくら美術館(中目黒)
「始点×観点」日本橋三越本店(日本橋)
2016年 「M3—ミライ×三越×結ぶ」日本橋三越本店(日本橋)
「菅循彦大賞展」倉吉博物館(鳥取)
他多数

《受賞歴》

2005年 安宅賞
2007年 サロンドプランタン賞／台東区長賞／平山郁夫獎金授与
2009年 修了制作大学買上げ
新生展ギャラリーショウアッド賞

Profile

1981 Born in Saitama Japan
2007 B.F.A., in Japanese painting of Tokyo University of Fine Arts and Music
2009 M.F.A., in Japanese painting of Tokyo University of Fine Arts and Music
2012 P.H.D., in Japanese painting of Tokyo University of Fine Arts and Music

《Award / Prize》

2005 Ataka Prize, Tokyo University of the Arts
2007 Salon de Printemps Prize
Mayor of the Taito-ku Prize
Ikuro Hirayama Grant
2009 B.F.A.Graduation Project, Purchased by the University
Shinsel Exhibition, Gallery Shorewood Prize

《Solo Exhibit》

2010 Ayana Otake Exhibition.Gallery Shorewood , Tokyo
2013 Ayana Otake 46th,L'espoir selection special exhibition Gallery Surugadai, Tokyo
2014 Ayana Otake Gallery Tomo, Tokyo
2015 Ayana Otake Gallery Tomo, Tokyo
2016 Ayana Otake Japanese painting Isetan Shinjuku Tokyo

《Groupe Exhibit》

2007 Drawing Exhibition Japanese Painting of Tokyo University of Fine Arts and Music gallery
2008-14 Tokyo
2009 Paper painting OZU Japanese Paper Musiun gallery Tokyo
2010 Japanese Painting and Korean Painting Kakiden gallery Tokyo
Image in dialog TEPCO gallery Korea
2012 Young Art Taipei Taiwan
Summer Art Festival 2012 Nihonbashi Mitukoshi Tokyo
2013 3 Women Artist Sogo Yokohama Yokohama
2014 Group Of GYOKO Surugadai gallery Tokyo
2015 Ouuka Prize Go-sakura museum Tokyo
Starting point x View Point Nihonbashi Mitukoshi Tokyo
2016 3M Nihonbashi Mitukoshi Tokyo
Tatehiko Suga Prize Kurayoshi Museum Tottori

表紙：すみるみ slumber F10

デザイン・制作：八犬堂
編集：東野佳代子
翻訳：菅間裕子
©大竹彩奈 2016

